

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年7月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202528
法人名	医療法人財団 百葉の会
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館
所在地 (電話番号)	静岡市清水区高橋2丁目9-15 (電話) 054-366-6655

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成21年4月18日

【情報提供票より】(21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18人	常勤	15人, 非常勤 3人, 常勤換算 17.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	造り	
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たんぼぼ診療所、やまだメディカルクリニック、新村歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人理念「自ら受けたいと思う医療と福祉の創造」に、地域とのかかわりを大切にする事業所として、独自の理念「あたり前の生活をあたり前に過ごしたい」を加えている。法人内の研修体制を整え、職員が各種研修に参加できるようにしたり、ホーム内での勉強会を実施するなど研鑽に努めている。職員は、利用者一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれに合った対応に努め、個々の役割作りを心がけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域との関わりが課題となっている。日常的な関わりはまだ少ないが、学生の福祉体験を受け入れるなど交流に努めたり、市との連携については、書類提出等には窓口を訪ね、担当者と直接顔を合わせるようにするなど改善に向け実践している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が自己評価に取り組んだが、経験の浅い職員からは「難しかった」との声もあり、評価の意義に対する理解には、ばらつきがあると考えている。今後は、各評価項目を通して自分たちのサービスを振り返り、課題を明確にして職員の共通理解のもと、具体的な改善に取り組むことを期待する。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 自治会役員、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員の参加を得て開催しているが、現在はホームからの報告会のようになってしまうことを懸念している。評価結果に対する改善計画を提示し、参加者から意見をいただいたり、地域住民との相互協力体制作りなど内容を工夫して、活発な意見交換が行われていくことを期待する。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月お便りを発行し、利用者の暮らしぶりを伝えたり、家族の訪問時には積極的に言葉をお話し、不安を解消するようにしている。また、苦情受付担当者を配置し、重要事項説明書に、受付・報告等の手順を明示し、速やかな対応を心がけている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 年に一度「浪漫館祭り」を開催し、地域住民を招待している。地域の子どもたちをはじめ多数の参加者があり、交流の機会となっているが、日常的な付き合いはまだ希薄である。今後は、認知症に関する理解を深めるため、地域住民向け講座を開催するなど、地域に対するホーム側からの発信も検討されたい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」に、ホームの理念「当たり前の生活を当たり前で過ごしたい」を加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、会議等の場で理念について確認し合っている。利用者が、入居前の生活を当たり前で継続できるよう支援していくことを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に一度「浪漫館祭り」を開催して地域の住民を招待し、交流の機会を作っている。また、自治会に加入したり、学生やボランティアの受け入れを行うなど、日常的な交流につながるよう取り組んでいる。	○	今後は、認知症に関する理解を深めるため、地域住民向け講座を開催することなども検討されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組んだが、経験の浅い職員からは「難しかった」との声もあり、評価の意義に対する理解には、ばらつきがあると考えている。	○	評価に取り組むことで、自らのサービスを振り返り、課題を共有化し、全員で改善に取り組めるよう、評価の意義の理解に努められたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会役員、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員の参加を得て開催しているが、内容は、ホームの現状報告が主体となっている。	○	評価結果に対する改善計画を提示して参加者から意見をいただいたり、災害時の協体制作りなど、参加者同士の活発な意見交換の場となるよう内容を工夫されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告等の書類は、直接担当者に手渡しするようにして日常的な関係作りを心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会は年に1～2回開催している。家族の訪問も多いので、日常の報告はその都度行うと共に、お便りを発行し、月に1度は全家族に近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望はあまり聞かれないが、日頃から話しやすい関係作りを心がけ、家族の訪問時には積極的に声をかけ、話を聞くようにしている。家族の意見をサービスに反映できるよう家族会の内容を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットを全職員でローテーションを組み、急な異動や離職に対する利用者へのダメージを最小限に抑えるように配慮している。この1年は職員の離職も少なく、落ち着いている。また、離職を防ぐため、職場環境の整備を行っていきたいと考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修体制が整っており、職員の研修参加を促している。また、ホーム内でも勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流はないが、法人内の事業所と相互の体験実習の交流を行っている。法人内には高名な指導者もおり、研修を受ける機会が多い。	○	職員が他法人の同業者との交流の場を持つことは、より良いサービス提供につながっていくと考えられるので、今後、相互訪問などの活動も期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスを利用し、徐々に慣れていただけるように配慮しているが、多くの場合、緊急の受け入れとなるため、時間的な余裕があまりない。相談時に本人・家族から十分話を聞き、馴染みの物を持参してもらうなど、できるかぎり不安を抱かせないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、掃除などの家事を一緒に行い、教えてもらいながら職員としてスキルアップを図っている。また、利用者の生活歴を把握し、本人が主役になる場面作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から話を聞き、生活歴や利用者の思いを把握し、フェイスシートに記入して職員間で共有している。また、利用者との会話や行動からも意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は一人ひとり詳細に作成され、たくさんの目標を明示している。家族や担当者の意見を取り入れ作成しているが、ケアカンファレンスが十分ではないと考えている。会議や生活記録の中にケアプランが実践できているかチェック項目を設け、検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごと、見直しを行っている。病気等体調の変化があった場合は、モニタリングやケアカンファレンスを行い、状況に応じた介護計画を作成し、家族に説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスセンターのレクリエーション等に参加している。ホーム入居前にデイサービスを利用していた方もおり、そこでの馴染みの関係を大切にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、受診・往診の対応を行っている。協力医には、月2回の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の意向を踏まえた上で、対応を検討して個別のマニュアルを作り、全職員で方針を共有しているが、まだ看取りの経験がないため、不安を抱いている職員も多い。	○	職員が不安となっている原因を具体的に挙げ、全員で話し合う機会を設け、何ができるのか、何が必要か、何が足りないのか等具体的な対応策を検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉掛けは丁寧で、居室に入る際も許可を得て入室するなど、プライバシーの保護に配慮し、職員同士で注意するようにしている。個人情報は引き出しに鍵を掛けて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを重視し、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に調理の仕方を教えてもらいながら食事の準備や片付けを行っている。要介護度が進み、以前のように関わることができなくなっている方も多いが、味付けを確認していただいたり、メニューを一緒に考えたりしている。食事は、利用者と職員と一緒に食卓を囲み、会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日、午後に利用できる。入りたがらない方も多いが、タイミングを図りながら誘っている。浴槽が深いので入浴台を入れて安全に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、特技、誇りにしていることなどを家族から聞き取ったり、日々の会話の中から把握し、毎日の生活の中でできることを役割分担している。また、一人ひとりの楽しみに配慮し、レクリエーションを取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもることのないように、外食や買い物、ドライブ等外出する機会を設けている。	○	一人ひとりの希望に沿った外出支援のための体制作りにも取り組まれない。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけていない。鍵を掛けることの弊害について職員で話し合ったり、工夫について考える取り組みを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行っているが実践的なものではなく、職員は不安を感じている。近隣との付き合いも希薄であり、有事に協力が期待できない状況にある。	○	職員全員が災害時の対応に不安を抱いている。災害発生時のシュミレーションを行い、具体的な課題を整理して運営推進会議で意見をいただき、地域住民の協力を働きかけていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、一人ひとりの体調を見ながら個々に応じて主食、副食の量を加減している。食事には献立表はなく、実食簿を見ながら栄養バランスをとっている。	○	栄養バランス等について、栄養士など専門的な視点でチェックしてもらうことにも取り組まれない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大正浪漫の落ちついた雰囲気が漂っているが、全体的に暗い印象があり、特にトイレが暗く、目が不自由になってきている高齢者にとっては利用しにくく感じられる。ブラインドで光を調整したり、季節の置物で季節感を取り入れている。	○	落ち着いた雰囲気を大切にしながら、利用者にとっての使い易さにも考慮されたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものを持ち込んでいただき、それぞれが個性のある居室作りを支援している。		